

記事掲載：2022 年 1 月

翻訳：2022 年 2 月

## イエメンにおける第一次緊急対応に 170 万米ドルの助成金を発表



### 【背景】

イエメンでは、2015 年 3 月に武力衝突が激化して以来、7 年におよぶ紛争が続いており、国民の 3 分の 2 にあたる 2,070 万人が緊急・人道支援を必要としています。その半分は子どもであり、うち 810 万人が教育支援を必要としています※1。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、紛争の損傷により、安全な水や衛生施設の利用が難しく、学校でも手を洗うための水や施設がなかったり、石けんがなかったりして十分な手洗いができないことが課題となっています。さらに、武力衝突の継続により、人道支援のアクセスが妨げられています。西海岸地域では激しい衝突や暴力が見られ、マアブ州もまたその影響を最も受けています※2。

**ノルウェー難民協会とのパートナーシップにより新たな助成金をイエメンに供与  
イエメン・マアブ州および西海岸地域の避難民とホストコミュニティの子どもたちに対する  
新たな支援を実施**

教育を後回しにはできない基金（[ECW](#)）は、イエメンにおける第一次緊急対応準備金として、新たに170万米ドルを助成することを発表しました。

この助成金の期間は18ヶ月で、ノルウェー難民協会（[NRC](#)）により事業が実施されることになっています。この事業により、現在も人道的危機下にあるイエメンの約5,500人の少女と少年に支援が届けられます。

「イエメンは依然として世界最大の人道的危機のさなかにあります。激しい武力紛争により、約810万人の学齢期の少女と少年が緊急時の教育支援を必要としています」と、ヤスミン・シェリフ ECW 事務局長は言います。「イエメンの子どもたちや若者にとっては、安全な学習スペースにアクセスすることで、自分たちの命を守ることができ、より平和な未来への種をまくことができるのです。」

イエメンで続く紛争は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）や気候変動の影響と相まって、子どもや若者を深刻なリスクにさらしています。緊急の教育支援を必要としている810万人のうち、165万人は国内避難民の子どもたちで、150万人は障害のある子どもたちです。

イエメンの教育インフラは完全に崩壊しています。2,500以上の学校が、破壊や損壊、教育以外の目的に利用されていると報告されています。紛争が全土に及び、国中で学校教育が断絶され、教育制度が崩壊しています。結果として、イエメンの1,010万人の学齢期のほぼすべての少女・少年の学びや総合的な認知・感情の発達に大きな影響が出ています。

さらに悪いことに、イエメンの教員の3分の2、すなわち17万人以上が、この危機のために4年以上も給与を受け取っていません。

「現地にいる私たちのチームは、空爆によって学校が破壊されたり、村から逃げ出さなければならなかったりして学校に通えない少女や少年たちを、毎日のように目にしています。私たちは、子どもたちが自分の未来を築き、イエメンの未来の一部を築くことができるよう、紛争の破壊的な影響から彼らを守り、教育を提供しなければなりません。」と NRC イエメン支部のエリン・ハッチンソン局長は言います。

ECW の第一次緊急対応助成金は、イエメンのマアブ州と西海岸地域の学習センター及び水と衛生設備の再建と修理に充当されます。また、子どもたちへの緊急かつ持続的な心理社会的支援、質の高い教育教材の確保にも支出されます。さらに、この危機への対応・支援を調整する能力・仕組みを強化するための資金としても使われます。今回の資金は、NRCとのパートナーシップにより、2019年に提供された、前回の[300万米ドルの ECW 第一次緊急対応](#)助成金の成果を基に進められたものです。前回の助成金では、約95の学校を改修し、9,000人以上の子どもたちに教育が届けられました。

※1 UNICEF, "[Humanitarian Action for Children](#)", p.1

※2 UNICEF, "[Humanitarian Action for Children](#)", p.2

【翻訳前の記事（英語）】

**EDUCATION CANNOT WAIT ANNOUNCES US\$1.7 MILLION GRANT FOR FIRST EMERGENCY RESPONSE IN YEMEN**

